

令和7年度
授業計画
講義シラバス



千葉県立農業大学校
研究科

目 次

1	教育理念	1
2	履修規程	2
3	講義要項	
(1)	教育課程表	7
(2)	時間割	9
(3)	研究科授業シラバス概要	
ア	教養科目	10
	・ 実用英語Ⅰ	10
	・ 実用英語Ⅱ	11
イ	専門教育科目	
(ア)	必須科目	12
	・ 加工・商品開発演習Ⅰ	12
	・ 加工・商品開発演習Ⅱ	13
	・ 農業経営実習Ⅰ	14
	・ 農業経営実習Ⅱ	15
	・ 農場指導実習	16
	・ インターンシップ研修	17
	・ インターンシップ基礎	18
	・ 情報処理	19
	・ 食品安全とリスク管理論	20
	・ フードシステム論	22
	・ 法人経営論	23
	・ 起業論	24
	・ 販売実践講座	26
	・ 農業関係法	27
	・ アグリビジネス論	28
	・ キャリア形成講座（税務）	29
(イ)	選択科目	30
	・ 共通科目講座（有機農業）	30
	・ 営農講座	32
	・ 発酵・微生物学	33
	・ 農政時事	34
	・ 花き装飾論	35

・ 生物資源利用論	・ ・ ・ ・ ・	・ 36
・ 園芸施設論	・ ・ ・ ・ ・	・ 37
・ 農業機械学	・ ・ ・ ・ ・	・ 38
・ 家畜解剖学	・ ・ ・ ・ ・	・ 39
・ 家畜衛生学	・ ・ ・ ・ ・	・ 40
・ 中小家畜論	・ ・ ・ ・ ・	・ 41
・ 大畜産論	・ ・ ・ ・ ・	・ 42
ウ 専攻実習	・ ・ ・ ・ ・	・ 43
エ 研究成果（課題研究）	・ ・ ・ ・ ・	・ 55

1 教育理念

千葉県立農業大学校(以下「大学校」という。)は、本県農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者を育成することを目的としている。

ここで期待される担い手及び指導者とは、農業が自然の恵みを人間生活に還元する価値ある産業であるとする農業観に立つとともに、広い視野を持ち、時代の変革に速やかに対応できる高度な専門的知識・技術及び経営管理能力と客観的な判断力を有し、地域社会に貢献するために積極的に行動できる者である。

このため、大学校においては、**校訓「志農創造」**の理念に立ち、青年等のもつ無限の可能性の発掘と創造力の開発をめざし、教育の方針及び教育上の視点を次のとおり設定する。

(1) 教育方針

学科別教育方針は次のとおりとする。

ア 農学科

農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成する。

イ 研究科

農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成する。

ウ 農業研修科

新たに就農しようとする者及び農業者が農業技術、農業経営に関する有益かつ実用的な知識・技術を習得するための研修を行う。

エ 機械化研修科

農業機械の安全かつ適正な取り扱いや効率的利用のための知識・技術習得するための研修を行う。

(2) 教育上の視点

次の視点に立ち教育を進めるものとする。

ア 広い視野を持つ豊かな人間性の形成

農業を、社会構造、経済構造及び農政の動向等、幅広い視点から捉え判断できるよう、豊かな人間性の形成をめざす。

また、寮生活の共同学習、集団生活を通して、自立と協調の精神を培う。

イ 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得

農業における著しい技術革新に対応するため、高度な知識・技術並びにこれを駆使する経営管理能力の習得をめざす。

ウ 地域社会における指導者としての資質の養成

優れた農業経営者として、また地域社会における指導者として、その役割を果たすため、幅広い教養の会得と指導力を養成する。

エ 土に根ざした実践力のかん養

理論だけでなく、実践的な教育を通して、農業における創造のよろこびや可能性を追求できるような人間性を育む。

2 履修規程

(目 的)

第1条 この規程は、千葉県立農業大学校校則(以下「校則」という。)第19条第2項及び第48条の規定により授業科目の履修及び成績の評価に関する事項を定めるものとする。

(時間割並びに授業科目)

第2条 校長は授業計画と授業科目の時間割を年度の学期初めに公示する

(単位制)

第3条 学生は、個々の授業科目を履修し、当該授業科目に与えられた単位を取得するものとする。

(授業科目履修届)

第4条 授業科目のうち教養科目及び専門教育科目は、必ず履修しなければならない必修科目及び各学生の専門的な研究及び卒業に必要な単位数を考慮して選択される選択科目で構成する。

2 学生は、選択しようとする授業科目について、各学期の始めの授業科目に関する説明会の開催時に、授業科目履修届(別記1号-1様式、第1号-2様式)を校長に提出しなければならない。

3 授業科目履修届を提出した後の取消し又は変更は、原則としてこれを認めない。

(出席要件)

第5条 学生は、授業科目の単位を取得するためには、履修しようとする授業科目の授業時数の5分の4以上出席しなければならない。

校則抜粋

(欠席)

第13条 生徒は、疾病その他の理由により授業を欠席しようとする場合は、その理由を付した欠席届(別記第10号様式)を校長に提出しなければならない。この場合において、疾病による欠席が連続して7日以上にわたる場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、生徒が忌引、災害その他やむを得ない理由により授業に出席できない場合は、校長が別に定めるところにより、欠席の扱いとしない。

3 同一の教科において、30分以内の遅刻、早退又は一時退席を3回行った場合は、1回の欠席の扱いとする。

4 前項の規定にかかわらず、実習については、遅刻又は早退を行った場合は、原則として欠席の扱いとする。

(単位の認定方法)

第6条 授業科目の単位の認定は、前条の出席要件を満たしている者に対して筆記試験、論文、レポート、学習態度等により総合して認定するものとする。ただし、演習、実験、実習等の授業科目については、筆記試験を省略し、論文、レポート、出席状況又は学習態度によって認定することができる。

2 授業科目の成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる方法によって行うものとする。

(1) 成績の評価は、100点法をもって行う。

(2) 成績の評価が50点から100点までの学生を認定とし、50点未満の学生を不認定とする。

(3) 成績証明書及び学籍簿の記載は、次の表に掲げる標語をもって表示する。

判 定		認 定			不 認 定
評 価	点 数	100点～80点	79点～65点	64点～50点	49点～0点
	標 語	優	良	可	不可

3 本校における学業成績の評定平均値は、前項に規定する成績評価を用いて、次の計算式により算出するものとする。

※計算式 (優×4 + 良×3 + 可×2) ÷ (優の科目数 + 良の科目数 + 可の科目数)

(技能審査成果の単位認定)

第7条 本校における技能審査の成果における単位認定の種類、対応科目、認定の単位数は、別表のとおりとする。この場合において、校長は、学生が別表の資格の欄に掲げる技能審査に合格し、資格を取得した場合は、当該学生からの申請に基づき、同表対応科目の欄に掲げる授業科目の単位に同表増加単位の欄に掲げる単位数を加えて認定することができる。

2 前項後段の認定を受けようとする学生は、技能審査の成果の単位認定申請書（別記第2号様式）を校長に提出しなければならない。

3 第1項後段の規定により認定することができる増加単位数は、5単位を限度とし、在学中における受検により合格した資格に限り認定を行うものとする。

4 同一の種類の技能審査で2つ以上の級等に合格した場合は、上位級の単位数を加算するものとする。

5 校長は、第1項後段の規定により単位の増加を認定する場合は、当該単位に係る成績の評価は行わない。

- 6 校長は、第1項後段の規定により単位の増加を認定した場合は、当該単位を卒業の認定に必要な単位に加算できるものとする。この場合において、当該認定に係る学生の学業成績記録に増加単位数、資格の種類及び合格日を記載するものとする。

(研究科における単位認定の特例)

第8条 本校研究科における科目単位を本校農学科在籍時に取得した場合は、研究科の単位として、当該学生からの申請に基づき、認定することができる。

- 2 前項の認定を受けようとする学生は、単位認定申請書(別記第3号様式)を校長に提出しなければならない。

- 3 第1項の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績は農学科在籍時に取得した評価とする。

(再履修)

第9条 学生は、単位の取得の認定が行われなかった授業科目について、単位を取得しようとする場合は、再履修実施願(別記第4号様式)を校長に提出し、再履修をしなければならない。

- 2 単位の取得の認定が行われなかった授業科目がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、評価を受けなければならない。

- 3 単位の取得の認定が行われなかった実習がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、実習を行った後に評価を受けなければならない。

(筆記試験)

第10条 本校の筆記試験は、学生全員を対象に各学期末に行う定期試験及び授業科目の授業時間内で適宜な時期に行う臨時試験とするものとする。この場合において、実施日を少なくとも7日前に、学生に通告するものとする。

- 2 所定の期日に病気、事故その他のやむを得ない事由で筆記試験を受験できなかった者に対しては、追試験を行うものとする。

- 3 前項の追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願(別記第5号様式)に、欠席届(別記第6号様式)及び医師の診断書、事故の証明書その他の欠席の理由を証明する書類を添えて、校長に提出しなければならない。

(受験上の注意)

第11条 筆記試験を受験する学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 学生は、特別の指示がない限り、試験開始の5分前に所定の教室に入室すること。
- (2) 特に指定された場合は指定の座席において受験すること。
- (3) 受験に必要な物品以外は試験監督者の指示する場所に置くこと。
- (4) 受験中は筆記用具類の貸借をしないこと。
- (5) 試験開始後30分以上が経過しなければ退室してはならない。

- (6) 30 分以上遅刻した者は、原則として受験することができない。
 - (7) 答案に学籍番号及び氏名の記載がない場合は無効になることがある。
 - (8) 試験時間が終了したとき、又は終了前に答案を作成し終わったときは、特に指示がない限り、教卓上に提出し、又は試験監督者に直接手渡して、静かに退室すること。
- (不正行為)

第 12 条 筆記試験の受験中に不正行為があった場合は、直ちに答案を回収し、当該不正行為を行った学生に対して退室を命じる。この場合において、回収した答案は無効とする。

2 不正行為を行った学生は、校則第 28 条に規定する懲戒の対象とする。

(補 則)

第 13 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則
(施行期日)

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
(千葉県農業大学校履修規程の廃止)
- 2 千葉県農業大学校履修規程は、廃止する。
附 則 (平成 26 年 3 月 7 日一部改正)
この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 4 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 5 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 6 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 7 附 則 (令和 3 年 3 月 9 日一部改正)
この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
(附則一部改正)
- 8 附 則 (令和 5 年 12 月 7 日一部改正)
この規程は、令和 5 年 12 月 7 日から施行する。
(附則一部改正)
- 9 附 則 (令和 5 年 12 月 25 日一部改正)
この規程は、令和 5 年 12 月 25 日から施行する。
(附則一部改正)
- 10 附 則 (令和 6 年 1 月 31 日一部改正)
この規程は、令和 6 年 1 月 31 日から施行する。
- 11 附 則 (令和 7 年 2 月 14 日一部改正)
この規程は、令和 7 年 2 月 14 日から施行する。

[別 表]

技能審査の成果の単位認定に関する基準

同一資格名で種別等が異なる資格を取得した場合、単位数の多い資格を増加単位として認定する。また、危険物取扱者（乙種）に関しては、複数の種を取得しても増加単位は1とする。

資格	対応科目	増加単位
日商簿記検定（3級）	キャリア形成講座	1
日商簿記検定（1，2級）	キャリア形成講座	2
農業簿記検定（1級）	キャリア形成講座	1
家畜人工授精師	家畜衛生学	2
農業技術検定（1級）	共通科目講座	1
食品衛生責任者	加工・商品開発演習	1

3 講義要項

(1) 教育課程表

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(研究科)(令和7年度)

令和7年度入学生(1年生)

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
教養科目	実用英語Ⅰ	2	30	○				
	実用英語Ⅱ	2	30			○		
	小計	4	60					
専門教育科目	必修科目	加工・商品開発演習Ⅰ	7	210	◎			
		加工・商品開発演習Ⅱ	7	210			◎	
		農業経営実習Ⅰ	10	300	◎			
		農業経営実習Ⅱ	10	300			◎	
		農場指導実習	2	60			○	
		インターンシップ研修	3	90	○			
		インターンシップ基礎	2	30	○			
		情報処理	2	30		●		
		食品安全とリスク管理論	2	30				●
		フードシステム論	2	30	○			
		法人経営論	2	30			○	
		起業論	2	30			○	
		販売実践講座	2	30				●
		農業関係法	2	30		●		
		アグリビジネス論	2	30		●		
		キャリア形成講座	2	30	○			
		小計	59	1,470				
	選択科目 8科目	共通科目講座(有機農業)	2	30			○	
		営農講座	2	30	○			
		生物工学	2	30	(開講せず)			
		発酵・微生物学	2	30	○			
		農政時事	2	30			○	
		花き装飾論	2	30		●		
		生物資源利用論	2	30		●		
		園芸施設論	2	30	○			
		農業機械学	2	30				●
		家畜解剖学	2	30				●
		家畜衛生学	2	30		●		
		中小家畜論	2	30	○			
		大家畜論	2	30				●
		小計	16以上	240以上				
専門合計		75以上	1,710以上					
専攻実習		22	660	◎				
研究成果(課題研究)		4	120	◎				
合計		105以上	2,550以上					

○・・・前期

●・・・後期

◎・・・通年

○講義は、1単位15時間

○実習・演習は、1単位30時間

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(研究科)(令和7年度)

令和6年度入学生(2年生)

科目群		科目	単位	時間	1年		2年	
					前期	後期	前期	後期
教養科目		実用英語Ⅰ	2	30	○			
		実用英語Ⅱ	2	30			○	
		小計	4	60				
専門教育科目	必修科目	加工・商品開発演習Ⅰ	7	210	◎			
		加工・商品開発演習Ⅱ	7	210			◎	
		農業経営実習Ⅰ	10	300	◎			
		農業経営実習Ⅱ	10	300			◎	
		農場指導実習	2	60			○	
		インターンシップ研修	3	90	○			
		インターンシップ基礎	2	30	○			
		情報処理	2	30		●		
		食品安全とリスク管理論	2	30				●
		フードシステム論	2	30	○			
		法人経営論	2	30			○	
		起業論	2	30			○	
		販売実践講座	2	30				●
		農業関係法	2	30		●		
		アグリビジネス論	2	30		●		
		キャリア形成講座	2	30	○			
			小計	59	1,470			
	選択科目 8科目	共通科目講座(有機農業)	2	30			○	
		営農講座	2	30	○			
		生物工学	2	30		●		
		発酵・微生物学	2	30	○			
		農政時事	2	30			○	
		花き装飾論	2	30		●		
		生物資源利用論	2	30		●		
		園芸施設論	2	30	○			
		農業機械学	2	30				●
		家畜解剖学	2	30				●
		家畜衛生学	2	30		●		
		中小家畜論	2	30	○			
		大家畜論	2	30				●
			小計	16以上	240以上			
専門合計		75以上	1,710以上					
専攻実習		22	660			◎		
研究成果(課題研究)		4	120			◎		
合計		105以上	2,550以上					

○・・・前期

●・・・後期

◎・・・通年

○講義は、1単位15時間

○実習・演習は、1単位30時間

(2) 時間割

令和7年度 研究科時間割表 前期

研究科 1 年						研究科 2 年					
学年 時限	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～		9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～
月	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		隔) インターンシップ基礎 (藤井・佐藤) [研1講義室]		HR [4階]	月	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		農業経営実習Ⅱ (山根・保坂) [4階会議室]		HR [4階]
			隔) 農業経営実習Ⅰ (山根・保坂) [4階会議室]								
火	加工・商品開発演習Ⅰ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [食品加工実験室・研1講義室]		加工・商品開発演習Ⅰ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [研1講義室]		火	加工・商品開発演習Ⅱ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [食品加工実験室・研2講義室]		加工・商品開発演習Ⅱ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [研2講義室]			
			農業経営実習Ⅰ (保坂) [4階会議室]			農業経営実習Ⅱ (保坂) [4階会議室]		農業経営実習Ⅱ (保坂) [4階会議室]			
水	隔) 専攻実習・課題研究 (各担当) (直売) [各専攻教室]					水	隔) 専攻実習・課題研究 (各担当) (直売) [各専攻教室]				
	隔) 農業経営実習Ⅰ (山根・保坂) [4階]						隔) 農業経営実習Ⅱ (山根・保坂) [4階]				
木	キャリア形成講座 ＜税務＞ (岡見) [研1講義室]	実用英語Ⅰ (石橋) [研1講義室]	営農講座 (平野) [研1講義室]	フードシステム論 (山崎) [研1講義室]	木	実用英語Ⅱ (石橋) [研2講義室]	起業論 (澤田) [研2講義室]	共通科目講座 ＜有機農業＞ (澤田) [研2講義室]	法人経営論 (平野) [研2講義室]		
金	園芸施設論 (中臺) [研1講義室]	# 発酵・微生物学 (恵比須) [研1講義室]	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		金	(就農・就職活動 専攻実習) [各専攻教室]	# 農政時事 (伊本) [研2講義室]	農場指導実習 (各担当) [各専攻教室]			
	# 中小家畜論 (本多) [第2講義室]										

隔) 隔週実施

選択科目

後期

学年	研 究 科 1 年						研 究 科 2 年				
時限	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～		9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～
月	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		農業経営実習Ⅰ (山根・保坂) [4階会議室]		HR [4階]	月	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		農業経営実習Ⅱ (山根・保坂) [4階会議室]		HR [4階]
火	加工・商品開発演習Ⅰ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [食品加工実験室・研1講義室]		加工・商品開発演習Ⅰ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [研1講義室] 農業経営実習Ⅰ (保坂) [4階会議室]			火	加工・商品開発演習Ⅱ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [食品加工実験室・研2講義室]		加工・商品開発演習Ⅱ (木内・藤井・中臺・高野・星野) [研2講義室] 農業経営実習Ⅱ (保坂) [4階会議室]		
水	農業経営実習Ⅰ (山根・保坂) [4階会議室]		隔) 専攻実習・課題研究 (各担当) (直売) [各専攻教室] 隔) 農業経営実習Ⅰ (山根・保坂) [4階会議室]			水	農業経営実習Ⅱ (山根・保坂) [4階会議室]		隔) 専攻実習・課題研究 (各担当) (直売) [各専攻教室] 隔) 農業経営実習Ⅱ (山根・保坂) [4階会議室]		
木	# 花き装飾論 (佐原) [研1講義室]	# 家畜衛生学 (岩淵) [研1講義室]	# 生物資源利用 論(橋本) [研1講義室]	アグリビジネス論 (山崎) [研1講義室]		木	# 農業機械学 (佐瀬) [研2講義室] # 大家畜論 (新城)	食品安全とリスク 管理論 (成田・田上隆一・ 田上隆多) [研2講義室]	(食品安全とリスク 管理論) (成田・田上隆一・ 田上隆多) [研2講義室]	# 家畜解剖学 (岩淵)	
金	情報処理 (野尻) [パソコン教室]	農業関係法 (大島) [研1講義室]	専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]			金	販売実践講座 (屋久) [研2講義室]		専攻実習・課題研究 (各担当) [各専攻教室]		

隔) 隔週実施

選択科目

(3) 研究科授業シラバス

ア 教養科目

授業科目 (履修区分)	実用英語 I (教養科目)	担当教員	石橋 喜代子
対象年次	研究科 1 年	期 別	令和 7 年度 前期
単 位 数	2 単位	時 間 数	3 0 時間
教育目標	Text、TOEIC (プリント) を使い、real life における speaking、Writing、reading、listening を学ぶ。 毎回成果を板書してもらい、確認する。		
	1 Greeting, Describe, people, one's self. Toeic Work 2 Present one's self, family, identify jobs. Toeic Work 3 Talk about countries. Toeic Work 4 Compare jobs in different countries Toeic Work 5 前回までの復習 Toeic Work 6 Identify places in a Home Toeic Work 7 Describe Houses. Toeic Work 8 Identify Household Object Toeic Work 9 Compare Houses in the world Toeic Work 10 前回までの復習 11 Ideas worth spreading Toeic Work 12 CD Activities. Toeic Work 13 Identify Personal possessions. Toeic Work 14 復習 15 期末テスト		
教科書 参考書	World English Third Edition Toeic プリント		
成績評価 の方法	授業の取り組み、出席状況、口頭実技 聞き取り実技、期末テスト 進捗状況を総合的判断		
備 考			

授業科目 (履修区分)	実用英語Ⅱ (教養科目)	担当教員	石橋 喜代子
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	Text、TOEIC（プリント）を使い、real lifeにおける speaking、Writing、reading、listening を総合的に表現できること。 毎回成果を板書してもらい、確認する。 Text（プリント）を使い、writing、reading、listening を学ぶ。 Toeic の民間テストに挑戦し、500点の取得を目標とする。 毎回、前回の成果を板書してもらい確認する。		
	1 Daily Activitie Toeic Work 2 Tell time Toeic Work Listenning 3 Talk about Daily Activities Toeic Work Listenning 4 Daily Activities. Toeic Work 5 前回までの復習 Toeic 前回までの復習 6 Talk about doing at school Toeic Work 7 Describe a Dream job. Toeic Work Listenning 8 Describe a Dream job reading. Toeic Work Listenning 9 Describe a Dream job writing. Toeic Work Listenning 10 Geting there Toeic Work Listenning 11 Ask for and Give Direction Toeic Work Listenning 12 前回までの復習 Toeic 前回までの復習 13 Create and Use a Tour Route Toeic Work 14 Describe Transportreation Pre-Test Toeic Work Listenning 15 期末 test		
教科書 参考書	World English third Edition. Toeic プリント		
成績評価 の方法	授業の取り組み、口頭実技 聞き取り実技、期末テスト 資格取得のための Work の進捗状況を総合的に判断		
備 考			

イ 専門教育科目

(ア) 必修科目

授業科目 (履修区分)	加工・商品開発演習Ⅰ (必修科目)	担当教員	宮城美紀子、星野康人 高野美奈子、中臺敬子
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 1か年通年
単 位 数	7単位	時 間 数	210時間
教育目標	農産物の農産加工技術、農畜産物栽培、商品化の実践を通して経営に結びつける課程を学ぶ。また6次産業化に向けたマーケティングの基本的な方法について習得する。		
授業内容	1 農産加工・調理に関する知識や技術の実践力の体得 (1) 穀類・野菜・果実・保存方法 (2) 商品化を想定した加工技術 2 加工向け農畜産物の栽培管理技術の習得 (1) 加工用品種の栽培、および加工特性 3 2年次の商品化に向けた技術の習得 (1) 生産者シーズの整理 (2) 消費者ニーズ調査の実施 (3) 消費者ニーズの分析 (4) 商品コンセプトづくり (5) 商品コンセプトに基づく試作品作成 (6) 校内商品テストの実施 (7) テスト販売の分析 農大農産物のシーズを活かして、消費者ニーズに応えた商品及びサービスの開発、販売を通じて基本的なマーケティングの考え方や具体的な手法を学ぶ。		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席 (25%)、演習態度 (50%) 成果報告 (25%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	加工・商品開発演習Ⅱ (必修科目)	担当教員	宮城美紀子、星野康人 藤井雄樹、高野美奈子
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 1か年通年
単 位 数	7単位	時 間 数	210時間
教育目標	農産物の農産加工技術、農畜産物栽培、商品化の実践を通して経営に結びつける課程を学ぶ。また6次産業化に向けたマーケティングの基本的な方法について習得する。		
授業内容	1 農産加工・調理に関する知識や技術の実践力の体得 (1) 穀類・野菜・果実の加工方法 (2) 農産物の一次加工処理方法 (3) 商品化を想定した加工方法 2 商品化を想定した経営管理の実践 (1) 1年次のデータに基づく商品コンセプトづくり (2) 消費者ニーズ調査の実施 (3) 消費者ニーズの分析 (4) 校内商品テストの実施 (5) 価格設定（原価計算、販売価格設定 (6) 商品テスト (7) テスト販売の分析 農業6次産業化を目指す農業者との協業による商品及びサービスの開発・販売を通じて、実践的なマーケティングの考え方や具体的な手法を習得する。		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席（25%）、演習態度（50%）成果報告（25%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業経営実習Ⅰ (必修科目)	担当教員	山根幹雄、宮城美紀子 菅澤太地
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 1か年通年
単 位 数	10単位	時 間 数	300時間
教育目標	将来の農業経営者や農業法人の社員として必要な経営管理能力を養うため、観光ブルーベリー農園を中心とした農作物生産を通じて、ビジネス視点を持った実践的な経営感覚を体験する。 また、法人運営の成長に必要なリーダーの役割や意思決定等について学習するとともに、自主的な運営による想像力、企画力、提案力、行動力、チームワーク力を養う。 さらに、加工商品開発（2次）に合わせ、原料生産（1次）及び販売促進（3次）により6次産業化を体系的に学ぶ。		
授業内容	模擬会社の運営を通じて次の内容を学習する。 1 組織運営と経営者の役割について 2 農業法人の運営について 3 ブルーベリー、農作物等の生産管理について 4 労務管理の仕組みについて 5 直売運営のための仕入と販売の手法について 6 直売、観光農園等による販売管理 7 農産物のマーケティングの基本 8 農産物加工商品開発と製造委託 9 財務諸表作成および財務管理の基本 10 情報発信と情報リテラシーについて 11 農業時事、外部環境の変化に伴う農業経営者の在り方 12 地域社会や農業者との連携 以上の項目について、生産・仕入・販売を通じて基本的な法人運営を学習する。		
教科書 参考書	適宜、資料を配布する。		
成績評価 の方法	授業への参加姿勢（出席状況およびグループワークでの積極性など）50%、積極性・自主的な活動50%で判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業経営実習Ⅱ (必修科目)	担当教員	山根幹雄、宮城美紀子 菅澤太地
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 1か年通年
単 位 数	10単位	時 間 数	300時間
教育目標	将来の農業経営者や農業法人の社員として必要な経営管理能力を養うため、観光ブルーベリー農園を中心とした農作物生産を通じて、ビジネス視点を持った実践的な経営感覚を体験する。 また、法人運営の成長に必要なリーダーの役割や意思決定等について学習するとともに、自主的な運営による想像力、企画力、提案力、行動力、チームワーク力を養う。 さらに、加工商品開発（2次）に合わせ、原料生産（1次）及び販売促進（3次）により6次産業化を体系的に学ぶ。		
授業内容	模擬会社の運営を通じて次の内容を学習する。 1 組織運営と経営者の役割について 2 農業法人の社会的役割と成長管理について 3 ブルーベリー、農作物等の生産管理について 4 リーダーとしての労務管理 5 直売運営のための仕入管理、価格設定について 6 直売、観光農園等による販売管理 7 農産物のマーケティング戦略の実践 8 農産物加工商品開発と製造委託 9 財務諸表作成および財務管理の実践 10 情報発信と情報リテラシーについて 11 農業時事、外部環境の変化に伴う農業経営者の在り方 12 地域社会や農業者との連携 以上の項目について、生産・仕入・販売を通じて実践的な法人運営により6次産業化、多角化経営についてのノウハウを養う。		
教科書 参考書	適宜、資料を配布する。		
成績評価 の方法	授業への参加姿勢（出席状況およびグループワークでの積極性など）50%、積極性・自主的な活動50%で判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農場指導実習 (必修科目)	担当教員	各専攻教員 (中臺敬子)
対象年次	研究科2年生	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
教育目標	専門的な農業技術の深化を目的として、所属する各専攻において、自らの研究を進めるとともに、農学科生の農場実習を指導する。 取り組んでいる研究課題や専攻実習について、下級生を指導することにより、地域のリーダーあるいは指導者としての資質を醸成する。 上級生として、下級生を教える責任意識、教えることのやりがい、協調性を養うことで、「自ら学び」、「自ら考える」確かな学力を育成する。		
授業内容	15回の授業を通じて、次の育成を図る。 1 生産・飼育技術の習得や加工開発等の技術向上並びに農業に関する実験・調査研究に取り組み、課題解決能力を育成する。 2 さらに、農学科生の実習においてメンターとしての役割を果たし、リーダー、指導者としての資質を醸成する。		
教科書 参考書	特になし		
成績評価 の方法	所属する専攻教室の担当教員が授業への取り組み姿勢(70%)や後輩指導の積極性(30%)について総合的に判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	インターンシップ研修 (必修科目)	担当教員	菅澤太地、宮城美紀子 中臺敬子、藤井雄樹
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	自己の関心の深い、優れた経営者や農業関係機関でのインターンシップ研修を通し、具体的な業務内容や必要とされる能力、コミュニケーションやマナー等について学ぶ。また、仕事現場での体験を通して自己の現在の能力や適性を分析することにより、今後の就職活動や就業に向けて職業意識の向上を図る。		
授業内容	1 インターンシップ研修 10日間の研修を通じて、具体的な業務内容、必要とされる能力、コミュニケーションやマナー等を学習する。 2 研修結果まとめ、就職活動・就業に向けたビジョン作成 研修報告書の作成（8月～9月）および成果発表（10月）を行う。これらを通して研修成果をまとめ、現在の自分の能力や適性等について分析を進めるとともに、就職活動・就業に向けた自己目標を設定する。また、成果集を発刊する。		
教科書 参考書	特になし		
成績評価 の方法	研修先からの総評、出席日数、研修報告書、成果発表会における発表内容により評価する		
備 考			

授業科目 (履修区分)	インターンシップ基礎 (必修科目)	担当教員	菅澤太地、 佐藤真理子（外部講師）、 宮城美紀子、中臺敬子 藤井雄樹
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	職業意識の向上を図るため、インターンシップ研修に向けて自己の関心の深い職場への研修依頼を指導するとともにキャリア講座を実施する。学生自ら自己分析、業界・業種・職種の研究、研修依頼を実践するとともに、マナーやコミュニケーション、職場で必要とされる能力等について学習することで研修効果を高める。		
授業内容	3、4、9～14は外部講師（数字囲み：□） 1 ガイダンス 2 自己分析、就職活動について □3 心構え、企業研究・エントリーシートの作成について □4 電話・メール対応等のビジネスマナー 5 個人面談・企業研究・エントリーシート作成① 6 個人面談・企業研究・エントリーシート作成② 7 個人面談・企業研究・エントリーシート作成③ 8 研修先発表・エントリーシート完成 □9 社会で求められる基礎的コミュニケーション □10 〃 □11 社会で求められる基礎的ビジネスマナー □12 〃 □13 仕事の基本（仕事を進める上で必要な力、考え方等） □14 〃 15 報告書の作成・事前準備について		
教科書 参考書	教科書・参考書無し（講師作成資料を使用）		
成績評価 の方法	授業態度、研修準備及び依頼先への対応		
備 考			

授業科目 (履修区分)	情報処理 (必修科目)	担当教員	野尻 八千代
対象年次	研究科1年	期別	令和7年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	適切にデータ活用するための情報リテラシー（情報活用能力）技術習得を目指す。 Office216を使用し複合的な資料作成・商品案内や情報の提供など、農業経営、農業関連産業においてより実践に近い形でアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業内容	Jimdoにてホームページを作成。 Microsoft Office 2016 (Word, Excel, PowerPoint) での資料作成、CANVAでポスターやラベルを作成し、ホームページを更新しながら、実務に近い形で学習を進め、計15回でホームページの完成を目指す。 1 Jimdo:ホームページ作成 2 Jimdo:写真、資料の登録 3 CANVA:ポスター制作 4 Word:案内資料の作成(文字の配置・インデント) 5 Word:目次作成(タブとリーダー) 6 Word:複合的なページレイアウトの資料作成(改ページ・段組) 7 Jimdo:ホームページの更新 8 Excel:数式・セルの参照(相対参照・複合参照・絶対参照) 9 Excel:表示形式と条件付き書式(曜日と日付・カレンダー作成) 10 Excel:複合グラフ(作成と編集・データソース編集追加) 11 Excel:関数(IF・COUNT・VLOOKUP・COUNTIF) 12 Excel:データベースの活用(ピボットテーブル) 13 PowerPoint:スライドマスター(作業の効率化を図る) 14 PowerPoint:アニメーションを利用した情報表現 15 復習・総合		
教科書 参考書	授業時にプリント資料を配布して、教材とする。		
成績評価 の方法	作成資料とホームページにて総合的に評価		
備考	4階パソコン室にて講義実施		

授業科目 (履修区分)	食品安全とリスク管理論 (必修科目)	担当教員	成田 弥土里 田上 隆一 田上 隆多
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	食品は本来安全であること。それは食品を生産する者として、最低限守るべき責任である。 本授業では、食品安全・リスク管理について、GAP・HACCP・SDGsをベースに、アクティブ・ラーニングで様々な視点から考察を行う。これまで学んだ知識・経験と共に、各自の想像力・論理的思考力・アイデアを活かし、分析力の向上を狙う。生産者として、基本と本質を理解し、実践を通して、GAP・HACCPを探究し、経営ツールとして活かす捉え方・考え方を習得する。		
授業内容	1 ガイダンス／食品安全と食品表示 この授業の目的・目標／食の安全と安心／食品表示 2 海外の食品安全制度から日本の食品安全制度を考える 日本のHACCP制度化ー背景と目的ー／海外での取り組み状況／FSMA 3～4 グループワーク1 ー経営で活かすために理解するー 国際水準GAPガイドラインと各種GAP認証を検証する 5 農薬の安全性と使用上のリスク 6 IPMを理解する（実習） 7 農場の安全・衛生 ーバックヤードー 農場の要であるバックヤードの整備を考える 8 グループワーク2 ー安全で衛生的な作業場ー 見学会 校内の施設に於いて、現状分析を行う 9～11 グループワーク2 ー安全で衛生的な作業場ー 資料作成 現状分析した結果をグループで話し合い、意見をまとめ、発表会に向けて資料を作成する 12 グループワーク2 ー安全で衛生的な作業場ー 発表会 13～14 GAPを活用した優良な農業経営事例 15 総括 ーHACCP・GAP・SDGsを経営に活かすー 流通業界（マーケット）が求めるGAP・HACCP ※2・3限連続授業あり（日程は別途連絡） ※期末考査レポートは第15回の授業内で提出		
教科書 参考書	GLOBALG. A. P. 第6版 基準文書 他、授業時に適宜プリントを配布する。		

成績評価 の方法	授業内での課題および期末考査レポート、授業への参加姿勢、グループワークでの積極度により評価を行う。尚、評価配分は下記の通りとする。 ・授業内での課題：30% ・授業への参加姿勢およびグループワークでの積極度：20% ・期末考査レポート：50%
備 考	・農学科の農業生産工程管理論で配付した資料の一部を使用する。

授業科目 (履修区分)	フードシステム論 (必須科目)	担当教員	山崎 政行
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	フードシステムとは、食料の生産から消費に至る全課程のことである。その過程は、生産地の事情や流通のグローバル化、食料消費の変化などから近年大きな変貌を遂げている。 本授業は、主要な食料の生産と流通の仕組み、変貌するフードシステムの実態について理解することを目的とする。研究生が次のステージでフードシステムについて自ら考える能力の習得を目指す。		
授業内容	1 オリエンテーション、食料の生産から消費に至る過程を考える 2 野菜・果実の生産と流通 3 食肉・鶏卵の生産と流通 4 米・麦の生産と流通 5 生乳・乳製品の生産と流通 6 食品の輸出入の状況 7 フードシステムに関するグループワーク 8 グループワークの発表とディスカッション 9 フードシステムを担う（1）生産者と生産者組織 10 フードシステムを担う（2）卸売業者と仲卸業者 11 フードシステムを担う（3）食品製造業者 12 フードシステムを担う（4）小売店と飲食業 13 フードシステムをめぐる消費者の視点と期待 14 試験 15 試験内容の解説とフードシステムの変化・展望について		
教科書 参考書	教科書は使用しない。参考図書：「フードチェーンと地域再生」斎藤修監修（農林統計出版/2014年）、「食料経済第5版」高橋正郎監修（オーム社/2016年）。「フードシステムの経済学第6版」時子山ひろみ、荏開津典生、中嶋康博著（医歯薬出版/2019年）		
成績評価 の方法	試験結果（50%）、課題提出及びディスカッション（30%）、授業への参加や取組姿勢（20%）から総合的に評価する。		
備 考	・第1回目の授業終了後に「授業で学びたいこと」を提出、第14回授業終了後に「授業で学んだこと」の提出を受け、取組姿勢の一部として評価する。 ・第2回目に、第7回目のグループワークの課題を示す。		

授業科目 (履修区分)	法人経営論	担当教員	平野 良樹
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	法人を経営するうえで、法令や行政手続きに直面することがしばしばある。そこで、与えられた事案を把握分析し、解決することによって、法令や行政手続きになじみ、法人を経営する能力を身に付ける。		
授業内容	1 法人の種類 会社法の成り立ち 2 持分会社 合同会社と株式会社の比較 3 会社の設立、定款の記載事項 4 資本・準備金のルール 5 増資、減資 6 会社の機関設計のポイント 7 株主総会、コンプライアンス 8 取締役、代表取締役の機能と仕組み 9 監査役、会計監査人、会計参与の責任と役割 10 会社の会計 計算書類、決算、資金調達の方法 11 株主と株式会社の関係 12 株式公開をすることのメリット・デメリット、 社債と株式の違い 13 M&Aに必要な事前調査 14 外国人を雇い入れる場合に必要な申請 15 試験		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席回数が規定に満たなければ筆記試験を受けられない。 筆記試験 (70%)、授業態度 (30%)、50点未満は不可とする。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	起業論 (必修科目)	担当教員	澤田 博光
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 前期(木2)
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	少子高齢化社会や地球温暖化への対応が大きな社会問題となる中で、SDGs(持続可能な開発目標)は、これまでの産業・社会構造を改革して、人口問題や環境問題などの課題を解決し、新たな経済発展を実現する持続可能な社会を創り出すための必須条件となっています。持続可能な社会とは、私たち一人一人が、自然環境に適した従来の産業の枠組みを超えた新たなビジネス構造と新たな社会基盤を考え、私たちにとって真に享受できる価値を創造し、その価値を認識し合って共創する社会です。 価値共創による社会を実現する新たなビジネスは、起業によって創成されます。起業とは、社会・経済環境の中から事業機会を認識し、自らの信用や能力によって経営資源を調達し、財やサービスの供給システムを構築することとしていくプロセスです。これまでの起業は、既存事業(しくみ)の延長線上で、新たなに成長する市場で事業を展開することに注目が集まりました。これからの起業は、既存の産業の枠を超えた新たな産業の括りで、新たな事業を創り出し、そこから生まれる新たな価値を共創して、新たな社会構造を構築することが求められます。 本授業では、起業までの一連のプロセスを理解し、起業家に必要な意志の強さや粘り強さ、事業に関係する組織の構成員や人脈など起業する上で重要な要素を学びます。また、授業では、起業を成功に導く要素を学び、その要素についての演習を行うことで、ひとり一人が起業家となるための素養を身につけることを目的とします。		
授業内容	1 ガイダンス(授業内容の説明、教員自己紹介) 2 起業活動とは何か 3 起業活動のフレームワーク 4 事業機会の発生と認識 5 経営資源と事業機会 6 創業時の資金調達 7 創業時のパートナーの選び方/人材確保・草の根エンジェル 8 供給システムのしくみと供給システムの構築 9 起業のための事業収支計画(演習) 10 起業活動のダイナミズム 11 ダイナミズムを支える起業家の資質 12 Society5.0 と農業DX 13 起業のための要件(ビジネス要件定義) 14 アグリカルチャと起業 15 まとめ		

	※1：第10回以降は、授業の後半に学生による座談会（発表会）の時間を設営する。 ※2：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。
事前・事後学習	【事前学習】 ・授業前に授業内容に相当する指定した参考書の内容を理解する。 ・座談会（発表）までに発表用資料を用意して提出する。 【事後学習】 ・講義ノートに当日の授業内容の振り返りを記入して提出する。 ※講義ノートは、指定した期限日までに Google Classroom で提出する。
教科書	指定なし
参考書	高橋徳行著 新・起業学入門 経済産業調査会（中古で購入可） 高橋徳行ほか著 アントレプレナーシップの原理と展開 農業情報学会編 新スマート農業 農林統計出版
成績評価の方法	授業への出席（40%）＋課題レポート提出（60%） ※1：講義ノートの提出を持って授業への出席とする。 ※2：座談会のプレゼンテーション及びディベートにより課題レポートの提出を代替する。
備考	

授業科目 (履修区分)	販売実践講座 (必修科目)	担当教員	屋久大介
対象年次	研究科2年	期別	令和7年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	実際の生産者として、また非農家からの新規就農者としての販路の確保や販売の促進について生の声を伝える。現状抱えている問題点や販路拡大の工夫を教えるだけでなく、学生主体に議論を活発に行い、より実践的な販売に対する思考や想定する力を培う。 海外派遣実習の経験から得た海外での農業生産、販売知識を伝え、目まぐるしく変化する販売市場に対応できる柔軟かつグローバルな思考を培う。		
授業内容	1 我が家の農業経営、販売実績 2 近隣農家の販売スタイル 3 欧米の農業と販売 4 顧客の購買心理 5 グループディスカッション 6 直売所での価格設定、販売戦略 7 小売店出荷と市場出荷 8 中間試験 9 有名農業法人の販売戦略 事例1 10 有名農業法人の販売戦略 事例2 11 付加価値について 12 輸出と輸入 13 販売市場のこれから 14 グループディスカッション 15 後期試験（販売戦略プレゼンテーション）		
教科書 参考書	講師配布テキスト		
成績評価 の方法	中間試験（40%）、最終試験（40%）、授業参加態度（20%）から総合的に評価する。		
備考	授業の進行、学生からの要望で適宜授業内容を若干変更する		

授業科目 (履修区分)	農業関係法 (必修科目)	担当教員	大島 大
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業関係の法律や農業政策について、その歴史的背景や変遷を踏まえ、それらを体系的に整理することにより、現在の法制度、政策の理解を深め、また問題点を検討する。		
授業内容	1 農地改革 2 農地法（1）農業生産法人制度 3 農業基本法 4 農地法（2）3条、賃借権保護、小作料統制 5 農振法（都市計画法・生産緑地法・農地法4条） 6 農地の流動化（1）自作農主義・耕作者主義 7 農地の流動化（2）借地による流動化の促進 8 食料・農業・農村基本法 9 農業経営基盤強化促進法 10 農地法（3）リース特区、平成21年改正 11 米政策 12 WTO 体制下の農業政策 13 農業金融制度 14 農業の税金 15 試験		
教科書 参考書	使用しません。毎授業時にレジメを配布します。		
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）評価試験2回（概ね80%）により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	アグリビジネス論 (必須科目)	担当教員	山崎 政行
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	アグリビジネスは、農業及びそれを取り巻く周辺ビジネスのことを指すものであり、その範囲は広い。 本授業は、我が国のアグリビジネスについて、農業経営体を中心に経営体を支援する組織との関係を含めた実態を理解することを目的とする。授業における事例に関する考察や議論を通して、研究生が将来関与するアグリビジネスについて、自ら考えうる能力を習得することを目指す。		
授業内容	1 オリエンテーション、アグリビジネスの目指す方向を考える 2 事例Ⅰ－第三者継承による就農の実態[水稻] 3 事例Ⅰに関する考察と議論 4 事例Ⅱ－6次産業化を展開するアグリビジネス[水稻+酪農] 5 事例Ⅱに関する考察と議論 6 事例Ⅲ－地域の酪農基盤の維持を目指す大規模法人[酪農] 7 事例Ⅲに関する考察と議論 8 アグリビジネスに関するグループワーク 9 グループワークの発表とディスカッション 10 事例Ⅳ－働き易い環境を整備して取り組む法人経営[野菜] 11 事例Ⅳに関する考察と議論 12 事例Ⅴ－専門農協を中心としたビジネスの展開[果樹] 13 事例Ⅴに関する考察と議論 14 試験 15 試験内容の解説とアグリビジネスの展望について		
教科書 参考書	教科書は使用せず、授業時に適宜プリントを配付する。 関心のある情報をネット・新聞などから多く入手しておくように。		
成績評価 の方法	試験結果（50%）、課題提出及びグループワーク（30%）、授業への参加や取組姿勢（20%）から総合的に評価する。		
備 考	・第1回目の授業終了後に「授業で学びたいこと」を提出、第14回授業終了後に「授業で学んだこと」の提出を受け、取組姿勢の一部として評価する。 ・第2回目の授業時に、第8回目のグループワークの課題を示す。		

授業科目 (履修区分)	キャリア形成講座 〈税務基礎〉(必修科目)	担当教員	岡見和義
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	国民の三大義務とされる納税義務でありながら、義務教育の課程であまり深く教えられない税について、確定申告や年末調整といった割と身近な題材を取り上げ、これらの具体的な書類を実際に見、その扱い方や必要性について学んでもらう。		
授業内容	(授業の具体的内容) 1 就業者の約9割を占める給与所得について 2 給与所得(源泉徴収の仕組み、サラリーマンの確定申告) 3 給与所得(源泉徴収税額、給与所得控除額、年税額の計算) 4 確定申告(10種類の所得その1) 5 確定申告(10種類の所得その2) 6 帳簿の記帳の仕方(白色) 7 帳簿の記帳の仕方(青色) 8 帳簿の記帳の仕方(簡易帳簿) 9 帳簿の記帳の仕方(固定資産台帳) 10 帳簿の記帳の実践 11 消費税の仕組み(負担者と納税者) 12 消費税の仕組み(一般課税と簡易課税制度) 13 消費税の仕組み(区分記載請求書、日本版インボイス制度) 14 消費税の仕組み(税抜と税込経理処理の違い、申告納付) 15 期末評価		
教科書 参考書	適宜税務署又は国税庁発行のプリントや冊子を準備する		
成績評価 の方法	講義の受け方や試験結果等を総合的に勘案		
備 考			

(イ) 選択科目

授業科目 (履修区分)	共通科目講座＜有機農業＞ (選択科目)	担当教員	澤田 博光
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	地球環境問題が深刻な状況を迎える中でSDGs（持続可能な社会の開発目標）の実現が求められていますが、第一次産業を代表する農業でも深い関わりを持っています。自然環境と農との調和、生活者の健康志向や食の安全、安心への関心が高まる中で、若手起業家によるあらたな農業への取組みも始まっていますが、少子高齢化の加速に伴う農業就労者の高齢化と労働就労人口の減少は、歯止めがかりません。 日本では、平成18年に策定された「有機農業推進法」に基づいて持続可能な農業を行うための「循環型農業」の実現が求められています。循環型農業とは、人間中心の社会が求める本来の農業の在り方である有機農業を取り戻すことであり、「食と人々の融和」、「有機農業と科学技術の融和」生産者と生活者をつなげる「人と人の融和」という3つの目標を実現し、自然環境と融和した持続可能な農業を実現することです。 本授業では、3つの目標を実現するための考え方や有機農業に関する科学技術要素について講義を展開します。授業では、まず日本の有機農業のあるべき姿について、これまでの歴史や課題、有機農法による循環型農業への取組みについて学びます。また、有機農業の実践農家の事例から有機農業の課題と解決に向けた取組みについて学習し、有機生産システムを実現する科学技術について学びます。		
授業内容	1 ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介） 2 有機農業の定義／有機農業を取り巻く状況 3 有機農業のこれまでの歴史 4 有機農業の科学的研究 5 循環型農業を促すヒント 6 有機農産物の品質（ほんとうに美味しいか） 7 農産物の新しい見方 8 循環している農業（食育と循環教育） 9 「有機農業の科学と技術」に学ぶ 10 有機農業の実践農家から学ぶ（1） 11 有機農業の実践農家から学ぶ（2） 12 果菜類、葉菜類への有機液肥の利用 13 低炭素社会の実現に向けた有機農業 14 持続可能な社会に適した有機農業/まとめ 15 学期末試験		

	※1：第10回以降は、授業の後半に学生によるプレゼンテーションの時間を設営する。学生は、「有機農業に関する一考察」をテーマにレポートを用意して発表する。 ※2：授業終了後に当日の授業の振り返りとして、講義ノートの提出を求める。
事前・事後学習	【事前学習】 ・授業前に授業内容に相当する教科書の内容を理解する。 ・プレゼンテーションまでに発表用資料を用意して提出する。 【事後学習】 ・講義ノートに当日の授業内容の振り返りを記入して提出する。 ・授業中に課題した課題レポートがある場合は期日までに提出する。 ・講義ノート及び課題レポートは、Google Classroomで提出する。
教科書	中野明正著 インテグレート有機農業論 誠文堂新光社 ※各自で電子書籍を購入のこと（中古の市販本あり）
参考書	東京農業大学「現代農学概論」編集委員会編 現代農学概論 西村和雄著 有機農業原論 七つ森書館 久松達央著 キレイゴトぬきの農業論 朝倉書店 ※内容は授業で説明するが、一読することをお勧めする
成績評価の方法	授業出席（30%）＋テーマ発表（30%）＋期末試験（40%） ※1：講義ノートの提出を持って授業への出席とする。 ※2：10回目以降の授業で、各自のテーマ発表の時間を設営する。 ※3：前期末に期末試験を実施する。
備考	

授業科目 (履修区分)	営農講座	担当教員	平野 良樹
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	規制緩和に伴い、近年、農業を営む会社法人の事例が増してきている。そこで、会社が農業を経営するために必要な知識を身につけ、あらゆる規模の農業経営に関する能力を養うことを目標とする。		
授業内容	1 農業経営の特性から事業プランをどのように考えていくか 2 農業委員会、農地の貸し借り、転用 3 農地法の許可要件、農業法人について 4 農地所有適格法人 5 農事組合法人 株式会社との比較 6 株式会社と持分会社 7 株式会社・持分会社・農事組合法人の事業要件、役員要件 8 農業参入方法についてそれぞれのメリットやデメリット 9 農業参入方法について比較検討、参入する場合の全体像・注意点 10 契約書の基本 契約する際の注意点、相手方に伝えるべき内容 11 契約当事者の有効要件 12 契約書の構成（農地売買契約書） 13 農業における労務管理 14 外国人技能実習・特定技能制度 15 試験		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席回数が規定に満たなければ筆記試験を受けられない。 筆記試験（70%）、授業態度（30%）、50点未満は不可とする。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	発酵・微生物学 (選択科目)	担当教員	恵比須 省吾
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	微生物の働きは多岐に渡り、我々にとって極めて重要な存在である。発酵食品は、古くから世界中で生産され利用されている。バイオテクノロジーの発達により、微生物を用いた有用物質の生産も盛んに行われ、人類の生活を大きく変えつつある。 それら微生物の基礎から応用を紹介し、農業・食品分野での微生物の働きに加えて、微生物が与える食中毒、感染症などの脅威に関しても理解をし、今後の活動に役立てることを目的とする。		
授業内容	1 担当教員の紹介、今後の講義内容の説明など 2 微生物の基礎（微生物の定義、種類、働きなど） 3 発酵と腐敗について（違いと働く微生物） 4 タンパク質とアミノ酸について、小テスト① 5 発酵食品での微生物の役割について 6 醤油醸造について 7 日本酒・ワイン醸造について、小テスト② 8 ビール醸造・鯉節の製造 9 微生物の構造・遺伝子について 10 微生物を用いたバイオテクノロジーー1（大腸菌の活用） 11 微生物を用いたバイオテクノロジーー2（バチルス菌の活用） 12 病原菌の基礎、ウイルスとファージについてー1、小テスト③ 13 病原菌の基礎、ウイルスとファージについてー2 14 発酵と微生物のまとめ 15 評価試験		
教科書 参考書	「発酵検定公式テキスト」 株式会社 実業之日本社 岩野裕一 著		
成績評価 の方法	小テスト（3回）、期末試験を実施する 評価試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農政時事 (選択科目)	担当教員	伊本 克宜
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	現在、5年間の「農業構造転換」集中期間に入っている。食料安全保障・環境・価格転嫁をめぐり農政は大きな転換期を迎えている。25年3月には新基本計画策定、水田農業の見直しも俎上に上る。直近の農政課題の知識習得を目指す。毎週の時事問題も取り上げ、農業問題との関連も考える。		
授業内容	◎農政時事とは何か ・キーワード「食料安保」「持続可能性」「国産シフト」 ・食料・農業 農政時事とらえ方と情報整理法、課題図書紹介 ・日々のニュース解説と農業・農政、社会問題も大局的に把握 ◎令和7年農業白書から ・白書特集の内容と狙い・読み解き方 ・自給率と国際・農業生産構造 ◎食料安保と改正基本法・新基本計画 ・食料・農業・農村の過去・現在・未来 ・「みどり戦略」SDGs等食トレンド ・品目別→食品業界・米麦 園芸・畜酪 ・フードテックその他新たな動き ◎農政と政治 ・政治の仕組みと農林議員、農政への反映 ・国内外の政治見通し 米中対立と農政 初夏ダブル選挙 ◎最終講義15回 ・参考課題図書引用を含め、「農政時事」講義との絡みでレポート「食と農～5年後『2030年の私』」を提出 ※講義を受け自身の経営・仕事、物の見方になんか課題整理		
教科書 参考書	「天地の防人 食農大転換と共創社会」(伊本克宜、ベストブック) 「フードビジネス最新キーワード64」(佐野啓介編、日経BP社)		
成績評価 の方法	レポート提出の上で評価。最大ポイントは、講義内容を踏まえ自分の考えが事実や具体的数字の裏付けを踏まえ主張できているのか		
備 考			

授業科目 (履修区分)	花き装飾論 (選択科目)	担当教員	笹原 由里
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	花き装飾の理論を知り、デザイン面や用途に応じた、花き生産の需要を学ぶ。フラワーアレンジの装飾技術を学び、幅広い教養と感性を磨く。 また、花き装飾を通し、日本文化及び他国の文化を学ぶ。		
授業内容	1 花き装飾の歴史とマーケットリサーチ 2 花き装飾総論 3 基本のスタイルを学ぶ①・・・三方見のデザインⅠ・・・解説 4 基本のスタイルを学ぶ②・・・三方見のデザインⅡ・・・実技 5 基本のスタイルを学ぶ③・・・四方見のデザインⅠ・・・解説 6 基本のスタイルを学ぶ④・・・四方見のデザインⅡ・・・実技 7 花き装飾の色彩と花の形態によるデザイン 8 中間評価 評価試験1 9 ヨーロピアンデザインⅠ・・・実技 10 ヨーロピアンデザインⅡ 11 クリスマス文化から学ぶ花き装飾Ⅰ・・・解説・実技 12 クリスマス文化から学ぶ花き装飾Ⅱ・・・リース・実技 13 ブライダルブーケから学ぶ花き装飾・・・実技 14 全体評価 評価試験2 15 それぞれの専門分野における花き装飾の可能性とまとめ		
教科書 参考書	フラワーデザイナー資格検定試験テキスト（社 日本フラワーデザイナー協会編） フラワーズインスタイル（誠文堂新光社） 造形要素と度合い（六耀社）		
成績評価 の方法	評価試験2回により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	生物資源利用論 (選択科目)	担当教員	橋本 詳平
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	農林業における生物資源(バイオマス)の有効利用を図るためには、地域資源情報の評価や循環利用過程での廃棄物処理、再利用、リサイクルなどの概念を理解する必要がある。 本教科では、地域生物資源の現状、生物資源の再資源化やエネルギー利用、廃棄物の処理、環境との係わりなどについて学習し、生物資源の有効利用と環境保全への理解を深める。		
授業内容	本講義では、最初の3回で、生物資源(バイオマス)の概念とその利用意義を理解するための基礎知識を解説する。その後、生物資源の個別の利用技術について解説する。 講義は、パワーポイントとプロジェクターを使用したスクリーン投影方式を中心に実施する。 1 生物資源とは？特に農地から発生する未利用生物資源について解説。 2 今、なぜバイオマスか？①地球温暖化と生物資源有効利用とのかかわりについて 3 今、なぜバイオマスか？②再生可能エネルギーとカーボンニュートラル 4 生物資源の農業利用：堆肥化 5 生物資源のバイオ燃料利用①ガソリンに替わる燃料：バイオエタノール 6 生物資源のバイオ燃料利用②軽油に替わる燃料：バイオディーゼル 資源作物：バイオ燃料の原料用作物 7 生物資源のエネルギー利用：メタン発酵で得られるバイオガス 8 メタン発酵後の残渣(メタン消化液)の農業利用 9 木質バイオマスのエネルギー利用①木質ペレットなどの木質燃料 10 木質バイオマスのエネルギー利用②種々の再資源炭 11 生物資源を利用するための収集、運搬について 12 生物資源有効利用①バイオマスプラスチックは環境にやさしいか？ 13 生物資源有効利用②エコフィードは食料自給率を上げるか？ 14 生物資源を有効利用するバイオマスタウンについて 15 期末試験		
教科書 参考書	パワーポイントスライドのプリントを授業前に配布する		
成績評価 の方法	小テスト、期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ・期末試験：60% ・授業中に実施する小テスト：10% ・授業への取り組み姿勢：30%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	園芸施設論 (選択科目)	担当教員	中臺 敬子
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	施設園芸に特有な栽培管理、環境管理および作業管理を理解する。さらに、施設園芸の現状と課題、最新技術の動向を理解する。		
授業内容	1 ガイダンス、施設園芸をめぐる情勢 2 施設内環境の特徴 3 園芸施設関連用語 4 わが国における施設園芸の現況 5 養液栽培の種類と特徴 6 園芸施設における石油エネルギー及びプラスチック使用量 暖房燃料、農業用資材の原料を学びその使用に伴う環境問題 7 施設園芸技術の新展開及びスマート農業 8 園芸植物の生理・生態特性（1）呼吸 呼吸のはたらき、環境への影響 9 園芸植物の生理・生態特性（2）光合成 光合成のはたらき、光合成速度に及ぼす環境要素等 10 園芸植物の生理・生態特性（3）蒸散 蒸散のはたらき、蒸散に影響を及ぼす環境要素 11 園芸植物の生理・生態特性（4）成長 栄養成長、生殖成長、転流、養分欠乏症と生理障害等 12 園芸植物の生理・生態特性（5）光／温度形態形成 発芽や花成のしくみ 13 園芸施設の物理環境調節（1）暖房・保温被覆資材 14 園芸施設の物理環境調節（2）換気・冷房 15 期末考査期末試験を実施し学習習熟度を測る。		
教科書 参考書	授業時に適宜プリントを配布する		
成績評価 の方法	レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 ・期末考査 50% ・授業への参加や取組 30% ・授業中に実施するレポート 20%		
備 考	参考図書「植物工場ビジネス」（日本経済新聞出版社/2010） 参考図書「施設園芸学-植物環境工学入門-」（朝倉書店/2022）		

授業科目 (履修区分)	農業機械学 (選択科目)	担当教員	佐瀬 善浩
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業機械の基礎的な構造や特性について理解を深め、安全かつ効率的な農作業の知識・技術の習得を目標にする。 各種の作業に利用されている乗用トラクタの基本的な構造・機能を学ぶとともに、実技を通じ運転方法や作業方法の習得を図る。 また、点検・整備の方法やスマート農機等の高性能農機に関する知識・実用性についても理解を深め、農作業や農業経営の改善につながる内容とする。		
授業内容	1 農業と農業機械 2 農業機械の利用と現状 3 農業機械の安全作業 4 トラクタの構造と操作 5 原動機の構造と整備 6 内燃機関 7 電動機、伝動装置 8 作業機の構造と利用 9 耕うん整地用機械の構造と操作 10 防除用機械の操作と利用 11 各種作業機の構造と利用（稲作、野菜・畑作、飼料作物用） 12 農業機械の利用と機械化体系 13 スマート農業の展開、農業機械の効率的利用 14 農業機械学まとめ 15 試験		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	試験結果（50%）取り組み姿勢（※50%）により評価する。 ※欠席がなく研鑽に励む姿勢		
備 考			

授業科目 (履修区分)	家畜解剖学 (選択科目)	担当教員	岩渕 功
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜体の構造の仕組みを知ることによって、その生理機能を立体的に理解する。そして家畜体の利用方法に役立てる。		
授業内容	1 家畜の進化と特徴・人との体型比較 2 骨格：各部（頭蓋）と連結・形態 3 骨格：各部（胴骨）と連結・形態 4 骨格：各部（肢骨、歯）と連結・形態 5 筋肉の役割、構造・分類 6 消化器：口腔、咽頭、胃 7 消化器：腸、肝臓、脾臓 8 食肉の特性と枝肉の格付・と場 9 泌尿器：腎臓、尿路、生殖器 10 循環路：心臓、血管、リンパ管 11 呼吸器：肺、気管 12 神経系、感覚器：脳、神経、眼球、耳 13 内分泌系、外皮：ホルモン、皮膚・角質器 14 まとめ 15 試験		
教科書 参考書	家畜比較解剖図説（養賢堂） 図説基礎動物生理学（アドスリー）		
成績評価 の方法	期末試験により評価する。		
備 考	テキストは図書室より借用		

授業科目 (履修区分)	家畜衛生学 (選択科目)	担当教員	岩渕 功
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	家畜衛生学の基礎的な知識を習得することにより、家畜の疾病予防と健康の増進を図り、生産性の向上に寄与する技術を学ぶ。 また、最近問題となっている、家畜の生産性を害する重要な疾病について理解を深める。		
授業内容	1 畜産の現状と家畜衛生 2 家畜衛生関連機関と関連法規 3 家畜伝染性疾患の国内防疫 4 家畜伝染性疾患の国際防疫・人畜共通感染症 5 家畜飼養環境の消毒 6 家畜の生産環境と生産衛生 7 家畜排泄物と環境保全型農業 8 牛の衛生管理 9 山羊の衛生管理 10 豚の衛生管理 11 鶏の衛生管理 12 その他の動物の衛生管理 13 免疫と動物用ワクチン 14 家畜の中毒と飼料安全 15 定期試験		
教科書 参考書	コアカリ 動物衛生学 文永堂出版株式会社 獣医衛生学教育研修協議会 編		
成績評価 の方法	定期試験、提出レポート、出欠席状況、講義聴講態度で評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	中小家畜論 (選択科目)	担当教員	本多 正隆
対象年次	研究科1年	期 別	令和7年度
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	中小家畜経営における総括的な技術体系及び流通構造について理解するとともに、これら畜産経営を取り巻く畜産情勢を解説してその理解を深める。		
授業内容	1 (養豚) 豚の外貌の特徴、消化器と食性、習性と行動、豚の一生、品種とその特徴、改良目標と審査・登録、系統造成、雑種利用 2 (養豚) 飼育形態と豚舎構造、子豚の生理的特徴、分娩時の管理、哺乳、餌づけ、人工乳、離乳、肉豚の飼育管理、枝肉、格付け、肉質、母豚の生理と飼育管理 3 (養豚) 雄豚の飼育管理と交配、妊娠と分娩、衛生と病気 4 (採卵鶏) ニワトリの品種と改良、飼育形態と施設・設備 5 (採卵鶏) ニワトリの栄養と飼料、種卵の採取とふ化、ひなの整理と育すう、採卵鶏の整理と飼育技術、 6 (採卵鶏・肉用鶏) ニワトリの衛生と病気、肉用鶏の生理と飼育技術 7 農場 HACCP と JGAP、動物検疫 8 ブランド化 9 (養豚) ICT 等省力化技術 10 (養鶏) ICT 等省力化技術 11 (山羊) 起源と品種、利用、ヤギの生理・習性、飼育環境と畜舎・施設 12 (綿羊) 起源と品種、利用、綿羊の生理・習性、飼育環境と畜舎・施設 13 中小家畜に係わる家畜衛生 14 期末試験 15 試験解説		
教科書 参考書	「新版家畜飼育の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)		
成績評価 の方法	定期試験 (60%)、課題 (30%) 講義聴講態度 (10%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	大家畜論 (選択科目)	担当教員	新城 恒二
対象年次	研究科2年	期 別	令和7年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	大家畜の動物分類学的位置と特性及び栄養生理学的特性について学ぶ。さらに、繁殖・泌乳及び肥育技術等飼養管理技術、衛生管理技術等について学び、大家畜（主に牛）による畜産経営について理解醸成を図る。		
授業内容	1 大家畜の位置付け、家畜化とその要因 2 大家畜の品種と特徴 3 牛の登録及び審査方法 4 反芻家畜の胃の構造と働き 5 酪農経営と乳用牛の飼養管理方法 6 肥育牛経営と肉用牛の飼養管理方法（乳用種・肉用種） 7 和牛繁殖経営と繁殖和牛の飼養管理方法 8 飼料の種類と特徴 9 飼料の給与と消化吸収 10 繁殖機能と生理 11 妊娠の成立機能と分娩 12 放射能汚染が経営に及ぼす影響 13 口蹄疫等悪性伝染病が経営に及ぼす影響 14 牛海綿状脳症（BSE）の現状 15 全体評価（評価試験）		
教科書 参考書	家畜人工授精講習会テキスト 家畜繁殖額の基礎 主に教科書を使用し、授業内容によってプリント配布		
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）、評価試験（概ね80%）により評価する。		
備 考			

ウ 専攻実習

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (必修科目)	担当教員	各専攻 教員-
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	各専攻教室に所属し、農畜産物の生産や調査を通じて生産技術・加工利用・課題等について学習するとともに、研究成果（課題研究）に取り組み、問題解決能力を高める。		
授業内容	次の11専攻教室に所属し、その専攻教員の指導により専門的な実習に取り組む。 1 作物専攻教室 2 露地野菜専攻教室 3 施設野菜専攻教室 4 果樹専攻教室 5 花卉専攻教室 6 畜産専攻教室 7 生物工学専攻教室 8 病虫害専攻教室 9 土壌肥料専攻教室 10 食品加工専攻教室 11 情報経営専攻教室		
教科書 参考書	各専攻教室 必要により資料提供		
成績評価 の方法	出席と学習及び論文への取組態度		
参考図書			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（作物） (必修科目)	担当教員	保坂 信久 藤井 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	水稻・穀類・イモ類・豆類など基幹作物の栽培を通じて、作物栽培管理技術の基礎、生理生態的特徴の理解、農業機械の操作や調製方法の基本を学び、作物栽培の実践的能力を養う。		
授業内容	1 食用作物に関する知識の習得 (1) 基本的な生理生態 (2) 栽培計画・施肥計画・栽培管理方法 (3) 病虫害防除技術 (4) 収穫と乾燥調製 (5) 作物に関する農業機械 2 作物の栽培管理技術の習得 (1) 水稻の基本的な栽培管理技術 (2) 穀類の基本的な栽培管理技術 (3) イモ類に関する栽培管理技術 (4) 豆類に関する栽培管理技術 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 調査研究方法の習得 (2) 計画を基にしたほ場づくり・作業実施・収穫調製 (3) 農業機械の操作技術 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書 参考書	なし（必要に応じて資料を配布）		
成績評価 の方法	出席（50%） 実習への取り組み（50%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（露地野菜） (必修科目)	担当教員	佐瀬 善浩 山下 雅大
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	農学科等で学んだ知識を基礎に、ほ場における実際栽培を学ぶ。 主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術等を学習する。 また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーや指導者としての資質向上を図る。		
授業内容	1 露地野菜の分類や栽培方法、病虫害の診断と対処法等の知識を習得する。 2 露地野菜の品種特性、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。被覆資材等の効果やトンネル・雨よけハウスの利用による周年栽培技術等を学ぶ。 3 栽培技術に加え、販売方法、売上、生産コスト、労働時間等について学習し、経営的視点を身に着ける。 3 各学生が担当圃場での栽培計画、栽培管理を実践することで知識・技術の応用力・実践力を身に着ける 4 他学生との共同作業やコミュニケーション、指導・助言等を通じて、地域農業のリーダー及び指導者としての資質を養う 5 GAPやスマート農業等に対する理解促進を図り、効率的かつ適正な作業環境・作業方法を習得する		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（施設野菜） (必修科目)	担当教員	中臺 敬子 小林 亮輔
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	施設野菜の栽培を通して、栽培管理技術等について習得する。研究科1年から2年における課題研究に向けて、データ収集、調査・研究を進める。また、就農予定者は営農計画の作成を目指す。		
授業内容	1 野菜に関する知識の習得 (1) 施設野菜の分類と栽培方法 (2) 施設野菜の育苗と栽培管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 環境負荷に考慮した栽培方法 (5) スマート農業・環境制御技術 2 栽培管理技術の習得 (1) 果菜類（トマト・キュウリ・メロン・イチゴ等）の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 葉茎菜類（コマツナ・ホウレンソウ等）の育苗管理、肥培管理を習得する。 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（果樹園芸専攻） (必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	果樹園芸品目の年間を通じた成長と実際の栽培手法を学ぶ。 主要な落葉果樹と常緑果樹の生理生態や栽培管理及び剪定等の技術等を理解する。 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。		
授業内容	1 果樹に関する知識の習得 (1) 果樹の栽培方法 (2) 果樹の繁殖法と果実の品質管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 農業生産工程管理、スマート農業機械 2 栽培管理技術の習得 (1) 落葉果樹（ナシ・ブルーベリー・ブドウ等）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 常緑果樹（ミカン・ビワ等）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 卒論課題品目の栽培管理の実践 (2) その他の果樹の栽培管理の実践（共同管理）		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	・実習ノートに適宜提出し、実習の理解度および研究進捗状況を確認する。 ・参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 （千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（花き園芸） (必修科目)	担当教員	永山 春菜 田川 真子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。		
授業内容	1 花き栽培に関する知識の習得 (1) 名称・分類 (2) 栽培計画 (3) 施肥設計 (4) 播種・育苗管理 (5) 病虫防除技術 (6) 温室管理技術 (7) 灌水方法 (8) 除草 2 栽培管理技術の習得 (1) 鉢花、切り花、花壇苗等の栽培技術 (2) 特定の出荷日を目指した開花調節 (3) 施設の管理方法、機械の操作技術 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 効率的な出荷調整作業 (2) 生産した花きを活用した装飾技術 (3) 試験・調査方法 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 千葉県花き産地の現状と課題の把握		
教科書 参考書	草花栽培の基礎（農文協） 花卉園芸学の基礎（農文協） 花の小事典（農文協） 農業技術体系		
成績評価 の方法	○取り組み姿勢（50%） ○技術習得状況（50%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（畜産） (必修科目)	担当教員	伊藤 香葉 本多 正隆
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	農学科等で学んだ知識を基礎に、畜産全般における肥育繁殖技術等を学ぶ。 乳用育成牛等反芻動物の飼育繁殖管理、肥育繁殖豚、採卵鶏等の飼育管理と疾病の対応、家畜の衛生管理（流行性人畜共通伝染病）及び出荷調製技術等を学習する。 また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーとしての資質向上や指導者としての涵養を図る。		
授業内容	- 畜産に関する知識の習得 - 家畜の分類と飼育管理方法 - 家畜の系統造成と高度な繁殖技術の習得 - 家畜伝染病の診断と衛生管理方法 - 環境負荷に考慮したエコ農業やスマート農業技術習得 - 家畜繁殖技術の習得 - 乳用牛（ホルスタイン種）、肉用牛（黒毛和種）、豚（二元雑種、三元雑種）、鶏（ボリスブラウン種等）の品種特性、飼育管理、病害虫防除、飼料配合調製の基本的な技術習得と理解を進める。 - 飼料用牧草地の管理と牧草の育生方法 - 高度な繁殖技術（AI、受精卵移植技術）の基本知識習得 - アニマルウェルフェアによる飼育管理方法の技術習得 - 知識や技術の実践力の体得 学生ごとに圃場や家畜の飼育管理の実践 - 地域畜産のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書	家畜飼育の基礎、日本飼養標準、畜産センター研究報告書、新しい農業技術（酪肉、養豚、養鶏）		
成績評価の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（生物工学） (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	微生物及び植物の培養、順化、栽培等、農学科で身につけた知識や技術をさらに深め、各自の課題研究テーマに合わせた実験を計画・実行し、結果を考察する力を養う。		
授業内容	1 植物組織培養等に関する知識の習得 (1) 無菌播種の方法 (2) 培地設計 (3) 培養条件の設計 (4) 微生物の培養方法 (5) 関連文献等の読解 2 栽培管理技術の習得 (1) 培土の調製 (2) かん水方法 (3) 育苗方法 (4) ハウスの温度管理 (5) 病虫害管理 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 実験計画作成及び実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 農学科学学生の圃場作業及び実験の補助		
教科書 参考書	実習内容によって適宜関連文献等を配布		
成績評価 の方法	出席状況（50%）、実習態度（30%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（病害虫） (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	病害虫に関する知識向上のため、病害虫専攻教室ほ場において実際の栽培や病害虫の発生生態、防除方法を学ぶ。また、各自のテーマに合わせた調査研究の実施とその結果の取りまとめを行う。		
授業内容	1 病害虫の発生生態や管理技術等に関する知識の習得 (1) 農作物の病害虫の診断・同定 (2) 農作物の病害虫の生理生態 (3) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等 (4) 総合的病害虫・雑草管理（IPM）の考え方 (5) IPMを念頭に置いた病害虫管理技術とその実践方法 (6) IPMの実践における経営的な評価 2 栽培管理技術の習得、病害虫や天敵の増殖技術等の習得 (1) 農作物の播種、育苗技術の習得 (2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得 (3) 農作物の病害虫管理技術の習得 (4) 病害虫や天敵の飼育・増殖方法等の習得 3 知識や技術の実践力の体得 試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 農学科学生の圃場作業及び実験の補助 (2) 地域実践活動を通じて、高いコミュニケーション能力や信頼関係の構築		
教科書 参考書	各自の試験内容に関係する図書及び文献（学術論文等）		
成績評価 の方法	出席回数（40%）、実習態度（30%）及び習熟度（30%）により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（土壌肥料） (必修科目)	担当教員	高田 伯約
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	農学科等で学んだ知識を基礎に、土壌肥料専攻ほ場における土壌改良技術や適切な肥培管理技術、栽培管理技術等を習得する。 また、スマート農業や環境に配慮した農業に関する知識・技術を学習する。研究科1年から2年における研究成果作成に向けて、データ収集、調査・研究を進める。		
授業内容	1 土壌改良に関する知識・技術の習得 (1) 土壌分析・診断 (2) 土壌改良技術 (3) 肥培管理・施肥管理 2 栽培管理技術の習得 (1) 作物・園芸品目の品種特性 (2) 育苗管理、病虫害防除、収穫調製等の技術習得 (3) スマート農業の知識習得 (4) 環境に配慮した農業に係る知識・技術習得 3 知識や技術の実践力の体得 学生ごとに圃場や作物・園芸品目の栽培管理の実践 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（40%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（食品加工） (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	食品学の講義で学んだ知識を基礎に研究科では、食品専攻室ほ場における実際の栽培、その加工、貯蔵技術を学ぶ。 また、地域農業の活性化のため六次産業化への取り組みを中心に課題設定を行い、主要な農産物の付加価値の原理と実験を行う。一方で、各研究成果のテーマに合わせた農産物の特性、利用方法を理論的にまとめる。		
授業内容	1 農産加工に関する知識の習得 (1)乳の加工 (2)ジャム、ソースの加工 (3)米粉・小麦粉を利用したパン、菓子の加工 (4)野菜の加工・保存方法の確立 2 栽培管理技術の習得 (1)乳の加工 (2)ジャム、ソースの加工 (3)米粉・小麦粉を利用したパン、菓子の加工 (4)野菜の加工・保存方法の確立 3 知識や技術の実践力の体得 (1)農産加工原料の特性と加工 (2)貯蔵の技術 (3)最近の食品加工技術・知識 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 野菜栽培を通して、規格外野菜の活用方法の指導		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取組姿勢及び理解度 50% 技術習得状況 50%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（情報経営） (必修科目)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	情報経営専攻教室では、生産・販売・流通・経営や地域農業の振興などの課題研究に取り組む。 現状分析を徹底し、問題解決学習を体験することで論理的思考を学習する。		
授業内容	1 情報、経営に関する知識の習得 (1) 農業経営に関する情報の種類 (2) 農産物の流通、生産におけるマーケティングの必要性 (3) 農産物直売所の現状と課題 (4) 生産工程管理と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践 (5) スマート農業の利用について 2 情報収集の手法と処理技術の習得 (1) 農業経営に必要な情報の集め方 (2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法 (3) 農業経営の収益性、生産性の分析 (4) 農業経営診断の指標、手順を理解し、診断ポイントを学ぶ 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 主要品目の栽培技術習得と経営効果の分析 4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 県内の優良農業経営体の視察調査により経営や指導能力を学ぶ		
教科書 参考書	適宜資料を配布する		
成績評価 の方法	取り組み姿勢（50%）、知識・習熟度（50%）		
備 考			

エ 研究成果（課題研究）

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (必修科目)	担当教員	各専攻担当
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	調査対象作物・家畜の栽培飼養管理や実験、調査の課題を設定し、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行う能力、集計する能力、分析、評価する能力を養う。また、その成果をまとめて効果的な発表を行う能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容	1 対象作物・家畜及び課題の設定 2 試験調査設計（材料及び方法、調査項目の検討） 3 対象作物・畜産の栽培飼養管理及び調査、データの収集 4 調査結果のまとめ、分析・評価、プレゼン資料作成 5 課題発表会（1年次：6月） 6 中間成績発表会（1年次：2月、2年次：10月） 7 研究成果（課題研究）パネル展示（11月） 8 研究成果（課題研究）発表会（12月） 9 研究成果（課題研究）まとめ（12－1月） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）・進路報告会（2月）		
教科書 参考書	各専攻指定		
成績評価 の方法	課題発表会、中間成績発表会、パネル展示、研究成果（課題研究）発表会、研究成果（課題研究）の作成において、総合的に判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (作物) (必修科目)	担当教員	保坂 信久 藤井 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	水稻・穀類・イモ類・豆類など基幹作物の栽培を通じて、課題解決手法を学ぶ。現場ニーズを捉えた課題設定、必要情報を集めての検討、得られた結果の取りまとめ、他人に分かりやすい説明等の能力の習得を目指す。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書	なし（必要に応じて配布）		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (露地野菜) (必修科目)	担当教員	佐瀬 善浩 山下 雅大
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	露地野菜の栽培管理を通じて、課題解決手法を学ぶ。現場ニーズを捉えた課題設定、必要情報を集めての検討、得られた結果の取りまとめ、他人に分かりやすい説明等の能力の習得を目指す。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (施設野菜) (必修科目)	担当教員	中臺 敬子 小林 亮輔
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	施設野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調製技術等を理解させる。 課題研究の作成にあたっては、課題を設定し、栽培計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果（課題研究）としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (果樹園芸専攻)(必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	果樹の栽培を通じて、課題解決手法を学ぶ。現場ニーズを捉えた課題設定、必要情報を集めての検討、得られた結果の取りまとめ、他人に分かりやすい説明等の能力の習得を目指す。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 社稷祭パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書	適時プリントを配布する		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、卒業論文（20%）、卒論発表会（10%）、社稷祭パネル展示（10%）		
備 考	・教員の定める各提出物の締め切りを遵守すること。理由なく遅れた場合は評価対象とする。 ・参考図書 「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 （千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (花き園芸) (必修科目)	担当教員	永山 春菜 田川 真子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	・花きの栽培管理や開花調節技術を身に付ける。 ・課題研究を作成するに当たり、課題の設定と進行計画を作成する。 ・課題に基づいた調査やデータの取りまとめ方法を学習するとともに、分かりやすい発表方法を身に付ける。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書	草花栽培の基礎（農文協） 花卉園芸学の基礎（農文協） 花の小事典（農文協） 農業技術体系		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (畜産)（必修科目）	担当教員	伊藤 香葉 本多 正隆
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和6年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	畜産の生産管理や高度な繁殖技術及び出荷調製技術等を理解する。 課題研究の作成にあたっては、自ら情報収集し、課題設定を行い、畜産生産計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や発育肥育調査による科学的な分析力を学び、課題研究としてまとめる。		
授業内容	1 情報収集 2 課題の設定 3 試験設計立案（品目、内容の検討） 4 試験区設定 5 試験栽培 6 調査、データの収集、知見 （畜舎・環境条件、飼料分析、生育・肥育・品質調査、伝染病の把握と病気疾病等の発生状況） 7 調査結果のまとめ、分析 8 パネル展示 9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）進路報告（2月）		
教科書 参考書	家畜飼育の基礎、日本飼養標準、畜産センター研究報告書、新しい農業技術（酪肉、養豚、養鶏）		
成績評価 の方法	出席態度 60%、課題研究 20%、発表会 10%、パネル展示 10%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (生物工学) (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業に関する課題について生物工学的手法を用いて解決するための試験計画を立て、これを着実に実行し、その結果を分析する力を身につける。結果のとりまとめと発表に当たり、データを解析し考察することに努め、研究成果を他者へ分かりやすく説明する能力を向上させる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書	資料を提供し、適時紹介する		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (病虫害) (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	病虫害に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果の取りまとめに関する能力を醸成する。 研究成果の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、研究成果（課題研究）を論文としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容等の検討） 3 試験区設定 4 試験実施 5 調査、データの収集、知見の蓄積 (病虫害及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）中間発表会 (研究科1年生の2月 2年生の9月) 9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 10 研究成果（課題研究）提出（1月） 11 研究成果（課題研究）進路報告（2月）2年生		
教科書 参考書	各自の試験内容に関する図書及び文献（学術論文等）		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (土壌肥料)(必修科目)	担当教員	高田 伯約
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	作物や園芸品目に合わせた土壌管理技術や生理生態等を理解する。 課題研究にあたって、設定した課題や栽培計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査、土壌分析等による科学的な分析力を学び、研究成果(課題研究)としてまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案(作物・園芸品目の選定、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見(気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 研究成果(課題研究)発表会(12月上旬) 9 研究成果(課題研究)提出(1月中下旬) 10 研究成果(課題研究)・進路報告(2月中旬)		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢(60%)、研究成果(20%)、発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」(農文協)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病虫害雑草防除指針」(千葉県農林水産部安全農業推進課)、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部安全農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (食品加工) (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	研究成果（課題研究）の作成にあたっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物の付加価値を消費者にも伝えられる手法を検討し2年間で論文としてまとめる。 各研究成果（課題研究）のテーマに合わせた農産物の特性、利用方法を理論的にまとめる。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (情報経営) (必修科目)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業経営において、基礎的な情報収集の手法を学ぶ。また、経営改善を図る必要なITリテラシーを習得する。 研究成果（課題研究）については、課題設定、調査手法、分析方法を理解し、パソコン操作によるデータ集計と考察・評価を取りまとめる。さらに、効果的な情報発信・企画運営を行うスキルを身につけ、プレゼンテーション能力を養う。		
授業内容	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目選定、調査内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培・研究 5 調査、データの収集、知見 (収量・品質調査、売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等) 6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年） 7 パネル展示（社稷祭） 8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬） 9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬） 10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）		
教科書 参考書	各自の調査内容に関係する図書及び文献 適宜資料を配布する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考			